

科学研究費助成事業（若手研究（S））研究進捗評価

課題番号	19676004	研究期間	平成19年度～平成24年度
研究課題名	既存耐震実験施設の有機的連携による防災技術向上策の開発	研究代表者 (所属・職)	高橋 良和（京都大学・防災研究所・准教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>E-ディフェンスの振動台による実験を実施できたことにより、当初の目標を達成するための課題を成し遂げるとともに、今後の展開に必要なデータも集積している。これまでのところ、順調に研究が進展していると考えられる。今後の研究では、当初の研究目的である「大型実験と中小型実験の有機的連携」、「分散マルチスケールハイブリッド実験手法の開発」を完結させるべく集約して取り組むことが望まれる。</p> <p>表題に防災技術向上策と書かれているように、社会の人々はより耐震性の高い土木構造物を望んでいる。最終破壊状況を明らかにすることも重要であるが、このような状況に至らないための方策を提案して欲しい。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究は、防災技術向上策のための技術開発の一環として高精度なマルチスケール分散ハイブリッド実験手法の確立を目指した研究である。具体的には、E-ディフェンスにおける16体の模型を使った一斉動的振動実験並びに民間企業最大規模振動台を用いた地盤・基礎を有するRC柱の実験を実施し、ハイブリッド実験結果の精度を確認しようとしたものである。異なるタイプの大型振動実験を成功させ、地震工学上有用なデータを獲得し、分散型ハイブリッド実験手法の信頼度向上に寄与した評価されるものである。</p> <p>ただし、重要な研究成果についての論文が内外の学術誌にまだ発表されていない状況と見受けられ、その点が残念である。</p>
A	